

# STRUM

シュトゥルム



第50号

2021年1月11日発行

新年の幕開け数日後に再び発出された緊急事態宣言、世界は1年前には予想だにできなかった厳しい状況となりました。冬の感染拡大が懸念された昨秋、やるなら今しかない！と踏み切った18回目のリサイタルは、伊都さんの演奏家魂のこもった素晴らしいパフォーマンスでした。まさに水を得た魚、翼を取り戻した鳥のよう…2021年もまだこの禍（わざわい）は続きそうですが、その先の大海、大空を信じて待ちたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い致します。



## 近況報告

昨年11月21日、改築を控えたみなとみらい小ホールにて、18回目のリサイタルが開催できましたこと、心より嬉しく、サポート頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。2020年は、今まで慣れ親しんだ日常が変化を余儀なくされ、演奏家にとってはパフォーマンスが規制される試練の年となりましたが、私自身は、自分が演奏すること、ステージの上から聴いてくださる方に音楽を届けることがこんなにも好きだったのだと、そして、もっともっと上手に、素敵な演奏をしたい、しなくてはならないという強い思いが、胸から溢れて、思わず立ちあがり、空をにらみつけ、こぶしを握ってしまうこともしばしば、自分の音楽家としての原点に立ち返れた良い機会になったと感じています。

2021年、どのくらいパフォーマンスができるか様子見ですが、3月には配信設備が万全のライブハウス、横浜エアジンにて、シャコンヌを含むバッハのソロパルティータを全曲、そして今年生誕100年を迎えるタンゴの祖ピアソラの曲を、演奏予定です。

冬に演奏をしていて思い出すのは、留学初年の12月、ベートヴェンが引っ越しを繰り返した地区にある、由緒正しき教会にヴィヴァルディの「冬」を弾きに行ってほしいと頼まれ、喜び勇んで駆け付けたところ、暖房のないマイナス5度の天井の高い暗い教会で、楽器は取り出したとたん、ピキピキと音が鳴ったような、4つのスチール弦はすべて冷たく細い凶器と化し、両手の感覚は5分もせずになくなり、それでも満員の観客、アイスノンより硬く冷たい楽器を顎にあて、どうか音よ鳴ってくれと弾きだしたところ、乾燥と冷気のおかげか、今まで聞いたことない、澄んだキラキラとした音が響き渡り、思わず寒さを忘れて自分の音に聴きいってしまったほど、音楽は教会から始まった歴史が骨身に沁みだしたことを思い出します。その後、私のSOSを聞きつけて友人が持ってきてくれた日本製ホッカイ口の暖かさが身に沁みだしたことも、忘れられない思い出です。

【伊都】

## 第18回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

11月21日、穏やかな秋晴れの午後、みなとみらいホールスタッフと共に万全の感染対策で臨んだリサイタル、伊都さんの演奏を待っていた200名近いお客様と、初めての試み、ライブ録画配信の機材もスタンバイしました。

心洗われるようなマスネ：タイスの瞑想曲で前半が始まり、後半は生誕250年のベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第9番「クローチェル」のみの構成でした。ベートーヴェンヴァイオリンソナタの最高傑作と言われるこの曲にベートーヴェン自身がつけた題は「ほとんど協奏曲のように相競って演奏されるヴァイオリン助奏つきのピアノソナタ」。ヴァイオリンとピアノが対等であることが特徴であり技術的にも高度なテクニックが要求されるこの曲の、ピアニストとして共演したのは桐朋時代の同級生で、イタリア留学中には2つの権威あるコンクールを制覇した実力者、森田義史さんです。男性らしい力強さと洗練された繊細さを兼ね備え、伊都さんとの掛け合いの演奏は圧巻でした。

アンコールはベートーヴェンメドレー。ダダダーン！で始まる運命1,2楽章→ピアノソナタ悲愴→第九歓喜の歌と続き、お客様にも大ウケの楽しさで、演奏する喜び、聴く喜び、最後は会場全体に笑顔が満ちました。



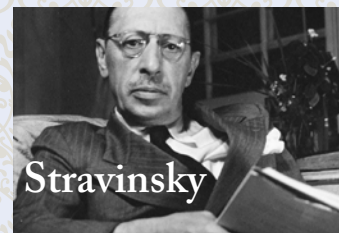


Piazzolla

2020年はベートヴェン生誕250年イヤーでしたが、2021年アニバーサリーを迎える作曲家は、私の大好きなタンゴの巨匠ピアソラが生誕100年、そして、同じく私がこのコロナ禍でついつい聴いてしまう、火の鳥や春の祭典で知られる、ロシアの異端児ストラヴィンスキーが没後50年を迎えます。日本の偉大なる作曲家、武満徹は没後25年、昨年リサイタルでも演奏したスペインのファリャは没後75年だそうで、いろいろ弾いてみたいなど食指が動いていますが、なんといってもピアソラはクロアチア、ザグレブの半分爆撃で壊れたままのカフェに流れていて、

バスと飛行機に乗り遅れた放心状態の私に、その切ないフレーズがぐさぐさと突き刺さり、ほかに考えなくてはいけないことは山ほどあるのに、ウィーンに戻れたらピアソラを弾こうと固く決意したことを思い出します。天使のミロンガという、少しマイナーなピアソラの曲、ストラヴィンスキーのヴァイオリンコンチェルトを久しぶりに弾きたいと思っています。

【伊都】



Stravinsky

## Ito=Solo Vol.5 (仮)

2021年3月27日 (Sat.) 17:00 ~ 19:00

at 横浜エアジン (横浜馬車道)

<http://airegin.yokohama/>

バッハ：シャコンヌ ピアソラ 他

Charge：¥3000 (1ドリンク付き)

有料ネットライブ配信 (2週間見放題) あり  
配信：¥2000

問い合わせ：045(641)9191 (エアジン)



作品 No.42

DVD Classic Collection

「パリが見出したピアニスト」

独学青年のサクセスストーリー

2018年 フランス/ベルギー



## あらすじ

パリ、北駅で「ご自由に演奏を！」と書かれたピアノを弾く青年マチュー。通りかかった名門コンセルヴァトワールのディレクター、ピエールは彼の才能に魅了された。貧しい暮らしのマチューは仲間と窃盗を働き逮捕されるが、ピエールは音楽院の清掃の公益奉仕を条件に彼を救い出す。ピエールは反抗するマチューにレッスンを受けさせ、国際ピアノコンクールで学院代表として彼を選ぶ。

## 見どころ

現代の若者 × クラシック音楽が魅力的に描かれている。駅で弾くバッハ：平均律クラヴィーアや音楽院で弾くリスト：ハンガリー狂詩曲、コンクール課題曲のラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番ハ短調を、一見不良少年で不愛想な彼が感情豊かに演奏する。フランスでは約100カ所のターミナル駅構内にピアノが置かれ、誰でも自由に弾けるようになっていることが物語の設定になっている。

## 感想

単なるシンデレラボーイのお話のはずなのだが、この映画、何故か感動する。監督のインタビュー記事を見ると、クラシック音楽を一部の富裕層や知識階級のものにしたいくない、という思いが込められているようだ。ピエールともう一人、厳しい女性教師の存在がマチューを成長させるが、逆に教師も成長させられている。フランス映画らしく、感動の押し売りではないところがいいのかもしれない。

\*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

編集後記 冬になってまた感染拡大のニュースばかりですが、よくぞ11月中にコンサートが出来たと胸をなで下ろしています。毎年当たり前のように行なっているリサイタルが開催できてこれほど嬉しかったことはありませんが、いくら万全の感染対策でも終わって2週間が過ぎるまでスタッフは内心ドキドキでした。クラシックの本場ヨーロッパで高い音楽教育を受け、学校でもコンクールでも優秀な成績を修めるといことは世界中の演奏家のうちのほんの一握りの人たち、彼らの高い技術と音楽性に圧倒されながら、身近で本格的な生の演奏に触れられる幸せを感じていました。お陰様でStrumは50号！皆様長くお付き合い頂き本当にありがとうございます！！何か派手にお祝いしたいところですが、このご時世、3月に予定していた後援会主催のコンサートも残念ながら中止とさせていただきます。でもでも、心いっぱい感謝の気持ちだけは伝えさせていただきます。/そしておうち時間が増え何をしようかと迷ったら、ぜひ音楽を聴いて下さいね。(くゆ)

発行：加納伊都後援会 TRAU BEN

〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15

TEL：045-622-6780

FAX：045-621-6423

Email：trauben@itokanoh.com

Homepage：itokanoh.com